



Photo: Naoya Ikegami

4人のダンサーが、川の水が自在に流れるように、フリーハンドで線を引くように動いてゆく。軽やかに、美しく、しなやかに、笑顔で。始まりも終わりもなく、どこまでも続いて行く線が見えるようだ。

—— 生西康典 演出家

好きに動く。大きな自由。でも、その自由をつくっている見えない母体がどこかにある。加藤訓子のサウンドが、そんなダンサーたちの離合集散の秘密を更に深めるはずだ。

—— 石井達朗 舞踊評論家

バックグラウンドも個性も異なる四者が交差し、程よい距離を保ちながら折り重なるように一緒にベクトルを生み出していく——。

ダンスの新たな錬金術！象の鼻テラスの開放的な空間で加藤訓子の奏でる玄妙な響きと共鳴し、めくるめく景色を立ち上げるだろう。

—— 高橋森彦 舞踊評論家

アーティスト同士のクロス、日本とベルギーとドイツのクロス、世代を超えたクロス……力ある者達が交差する、その一瞬が放つ光芒に、いつも胸を撃たれるのである。

—— 乗越たかお 作家・ヤサぐれ舞踊評論家

ダンスとは、直観であり、衝動であり、律動そのものだ。けれど外部に晒された途端、その効力をさらに発揮する。起きていることを見逃さないこと。不可視について思考すること。その実験であろうこの公演を見届けたい。

—— 前田圭蔵 東京芸術劇場・realtokyo同人

# Cross Grip クロスグリップ

演出・振付：池田扶美代 音楽：加藤訓子 出演：畦地亜耶加 川合ロン 木原浩太 池田扶美代  
Choreography & Direction: Fumiyo Ikeda Music & Live Performance: Kuniko Kato  
Dancer: Ayaka Azechi, Llon Kawai, Kota Kihara, Fumiyo Ikeda

2016.1.7〔木〕 8〔金〕 9〔土〕 19:30開演（開場は19:00 全日共通） 会場：象の鼻テラス

【クロスグリッパ】

2014年に始まったこのプロジェクトも3度目のトライアウトになります。『作品に完成は永遠にない』という考え方があります。そしてこのプロジェクトは各回ご事情を足して行くという意味でのトライアウトでもあります。1度目は30分の作品、2度目は1時間の作品で共にアーキタンツのスタジオで発表。そして今回は念願の加藤訓子さんの共演で象の鼻テラスでの発表です。衣裳と照明は次回の発表が、もしも実現出来ればトライしたい事になります。このように今出来ることを出来る範囲でやるというポリシーが、このプロジェクトの自然な流れになりました。

私達5人は、住んでいる国も街も環境も違います。その5人が鳥のように一つの空間に集まります。

この作品を創るにあたって『複雑系』のエピソードが背景にあります。たくさんの要素が繋がりがあって、思いがけない事が起こること：しかし、複雑とは単純さの集まりなのです。

鳥や魚の群れが完璧に流れを保ち行動する事、見える事、見えない事、ルール、破られるルールなどに興味があります。たった4人で群れの習性は表すのは難しいですが、私達の中にある磁気と加藤訓子さんのバイブレーションが流れを作れると願っています。【クロスグリッパ】とは、マリンバ等のバチ(マレット)を左右の手に2本ずつ使用するグリッパ奏法です。4人のダンサーが加藤訓子さんのマレットのようにクロスし、時には一つの音に、時には4つの音になる、全員がクロスし、グリッパし合う、そういう意味合いも込められています。

池田扶美代

〈 曲 目 〉

Electric Counterpoint version for percussion(1987/2009) / Steve Reich  
arr. for steel pans, vibraphone & marimba and ore-recorded tape (arr. kuniko kato)

- I. movement i : fast
- II. movement ii : slow
- III. movement iii : fast

Spiegel im Spiegel (1978/2012) / Avro Part  
for matimba and bells (arr.kuniko kato)

Sonata in G minor, BWV1001 / Johann Sebastian Bach (arr. kuniko kato)  
I. Adagio II. Fuga (BWV1000) III. Siciliana IV. Presto



池田扶美代

1979年モーリス・ベジャールのムードラ(ブリュッセル)に入学。同校でアンヌ・テレサ・ドゥ・ケースマイケルと出会い、1983年共にローザスを結成。2007年以降はローザスに携わる傍、自身の作品も創作。アラン・プラテルと共に創った「ナインフィンガー」イギリスの演出家ティム・エッチェルスと共に創った「in pieces」、ニューヨークの演劇グループ、ネイチャー・シアター・オブ・オクラホマと「Life&Times Episode2」を発表。2013年「amness」を山田うんと発表。2015年10月「Absence」をベルギーで発表。ベルギー在住。



畦地亜耶加

2009年よりサシャ・ヴァルツ&ゲスツによる作品「Continu」「Roméo & Juliette」「Matsukaze」等に出演中。これまで加藤みや子、伊藤キム十輝く未来等に参加。2007年笠井歌舞学校を修了。主にベルリンと日本で、自身の作品や様々な作家とのコラボレーション作品も多数創作、発表している。ドイツ在住。



川合 隆

ストリートダンスの経験を活かし、質量と柔軟性を持った、強靱なダンスを展開。山田うん、鈴木ユキオ、小野寺修二、北村明子、インバル・ピント&アプシャロム・ボラック(イスラエル)振付・演出のミュージカル「100万回生きたねこ」や加藤みや子ダンススペース作品など、国内外の振付家・演出家の作品に多数出演。



木原浩太

加藤みや子ダンススペースメンバー。日本大学芸術学部卒業時に日本大学総長賞受賞。2012年よりCo.山田うんに参加。マシュー・ボーン の DORIAN GRAY、GQ2015 GABBY等にダンサーとして出演する傍ら、自作品にも力を入れている。海外フェスティバルに招聘出演。国内舞踊コンクール第1位受賞等。



加藤訓子

桐朋学園大学研究科卒業。ロッテルダム音楽院を首席で卒業。日本を代表する世界のトップ・パーカッショニストとしてグローバルに活躍。高音質配信で世界的に有名な英国リレコーズと契約する唯一の日本人アーティスト。アルバム「kuniko plays reich」にて第十二回サントリー-佐治敏三賞を受賞。2013年リリースした「CANTUS」にてアルボ・ベルトの代表作を世界で初めて打楽器へ編曲し、第26回ミュージックペンクラブ音楽賞・最優秀録音賞受賞。パール楽器・アダムス社(蘭)インターナショナルアーティスト。米国在住。

演出・振付：池田扶美代

音楽：加藤訓子

音響：寒河江勇志

舞台監督：宮田公一

ドローイング：染谷有紀

グラフィックデザイン：江尻ひかる

企画制作：アネックス仙川ファクトリー

監修・プロデュース：加藤みや子

会場協力：象の鼻テラス

Special thanks：アーキタンツ

助成：公益財団法人 全国税理士共栄会文化財団

主催：HOT HEAD WORKS PROJECT

チケット 全席自由

前売 一般3,000円 学生2,500円

当日 一般3,500円 ※学生前売のみ

チケット取り扱い

アネックス仙川ファクトリー TEL: 03-3309-7200

お問い合わせ

アネックス仙川ファクトリー

TEL: 03-3309-7200 E-mail: asf@mac.com

〒182-0002 東京都調布市仙川町2-18-21 グレース仙川B1



【象の鼻テラス】 www.zounohana.com

〒231-0002 横浜市中区海岸通1丁目 TEL: 045-661-0602

みなとみらい線「日本大通り駅」1番出口より徒歩約3分

※駐車場のご用意がございません。

公共交通機関にてご来場ください。

Check

1.7[木] & 8[金] 17:00~ 9[土] 13:00~ 参観費:無料

出没イベント tentative (タンタティヴ: 仏語でトライアウトと同じ意味)

日没や午後の陽の中でのオープンリハーサルを本番通りではありませんが是非お楽しみください!